

# 大使館医務室ニュースレター

大使館医務官 松木孝道

## 蚊の備えは十分ですか？ 液体蚊取り Baygon/ALL-OUTは全室に！

ハイライト:

- 気温の増加に伴い下痢の患者さん増加中。
- 下痢症の中には日本では稀なアメーバ赤痢、ジアルテアも！
- 新しい外来専門病院Max Medcentreがオープン。
- デリー医療情報を掲載した「医務室ホームページ」開設。

### 「下痢」の自己診断・治療は危険！必ず検便を

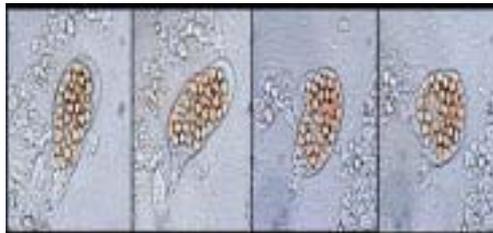
気温がどんどん上昇しています。INA マーケットのチキン・魚売りの場の蠅の数や臭いも半端ではなくなりました。この季節デリーでもっとも身近な病気が「感染性下痢症」です。インド生活に慣れた方の中には日本から持ち込んだ抗生物質(しかも期限がいつか分らなくなったようなもの)を服用し対処しているとの話も聞きますが、、、ちょっと待ってください。「前に効いたから今度も効く」とは限りません。「インドは何でもありの国」ですから。

下痢の原因は様々です。糞口感染症と呼ばれる感染性下痢症に限っても、病原体は細菌、ウイルス、寄生虫等々。日本人が大好きな「抗生物質」はウイルスや寄生虫には効果がありません。

また細菌感染であったとしても、抗生物質は細菌の種類によって効きやすさ(感受性)が異なります。見込みで服用した抗生物質が原因菌に感受性があるという保証はありません。また近年、抗生物質の不適切な使用が原因で耐性を獲得した細菌が世界的に問題になっています。インドも

その例外ではありません。

下痢の原因が寄生虫の一種のランブル鞭毛虫や赤痢アメーバである患者さんをこの3ヶ月間に10人も診ました。中には無症状のコックやメイドが感染源であった例もあります。



顕微鏡下でみた赤痢アメーバの運動: 左から右に偽足の形が変化している様子が分ります。

インドではお馴染みの下痢だからこそ、適切な診断と治療に心掛けましょう。

<下痢の時は>

- 1) 医師の診察を受けましょう。
- 2) 薬物治療の前に必ず検便。結果を待たずに治療を開始する場合も治療法の変更に役立ちます。□

### 検便実施施設

施設名

電話番号

住所

The Clinical Laboratory  
電話 614-3110, 614-3677  
E-13/9 Vasant Vihar

Diagnostis Medilab  
電話 646-8392, 644-0437

Aashlok Hospital  
電話 616-5901 ~7  
25-A Block AB,  
Safdarjung Enclave

Max Medcentre  
電話 649-9870  
N 110 Panchsheel Park  
Safdarjung Enclave

Dr. Max  
電話 693-2433  
17 Eastern Avenue  
Maharani Bagh

Dr. Max  
電話 646-5253  
B 70 Greater Kalashi I

### 慢性疾患、生活習慣病の管理も忘れずに

インドに生活するとなると、マラリア、デング熱、コレラ、腸チフス、狂犬病、ウイルス性肝炎など感染症のオンパレードにまず意識が向きます。そちらの備えも大切ですが、皆様がもし高血圧症、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症、脂肪肝、肥満など

の慢性疾患・生活習慣病に罹患している場合、デリーでもその管理も忘れてはいけません。当地でも主治医を決めて定期的な診察・検査を受け脳卒中や心筋梗塞の発症を未然に予防しましょう。専門医をご紹介します。□



広々とした清潔な待合室



最新の医療機器の一つMRI

## 新しい外来専門病院 Max Medcentre オープン

清潔好きの日本人の皆様朗報です。この1月に外来専門医療機関Max Medcentreと二つのDr. Maxがオープンしました。既存の医療機関に「医療機器が揃っていて小回りが効くけれど、不潔感が我慢できない」「良い病院なんだろうけれども大きすぎて温かみがない」「すぐ診てくれるけれども、診察が信用できない」とのご不満を抱いていらっしゃる方にとって受診病院・医院の新たな選択肢となりそうです。

開設後間もなく、受付から支払いまでの流れが必ずしもスムーズでないのが現時点の難点ですが、医療費もリーズナブルな範囲です。肝心の医療レベルの方も、最新の医療機器と、米国でトレーニングを受

けてた若手・中堅ドクターによって支えられ、今までご紹介させていただいた患者さんには概ね好評です。

住所電話番号は前ページの**検便実施施設**をご参照ください。また24時間受け付けのToll Free Helplineは1-600-11-3000です。救急車も2台あり、2002年に入院設備を備えた病院が完成するまでは、契約病院への搬送も可能とのことです。現在日本語を話すコーディネーターの採用を経営サイドに強く勧めております。受診の際は、英語が得意な方も「日本語が通じればもっと便利なのに」と一言残してください。□

**紫外線**はお肌の敵であるばかりでなく、**白内障**の進行も早めます。特にご高齢の方はUVカットのメガネレンズやサングラスをつけ外出しましょう。

## 医務室ホームページ開設

デリー在留邦人の皆様や邦人旅行者の皆様のお役に立つ医療情報をお届けするために「在インド日本国大使館医務室ホームページ」を開設しました。コンテンツは現在鋭意工事中です。このホームページにはデリーの医療機関情報、デリーで気を付ける病気の情報、さらにタイ

ムリーな感染症流行情報、医療医学の最新の話などを掲載する予定です。皆様のデリー生活のお役に立てば幸いです。URLは以下の通りです。□

<http://plaza.harmonix.ne.jp/~taka-m/>

## はじめまして新任医務官の松木孝道です。

前任の美甘克明医務官の中国転勤に伴い、1月17日ルーマニアから異動してきました松木孝道です。家族共々宜しくお願いします。専門は内科学。特に微小循環学、臨床薬理学の分野の研究を信州大学医学部、University of Virginia(米)、Bayer AG(独)で続けてきました。信大医学部卒業以来、アメリカ、ドイツ、ルーマニア、そしてインドと海外生活が都合8年を超えました。'97年2月に医務官としてルーマニアに赴任以来、研究の第一線からは退きましたが、現在は一臨床医として「Travel Medicine(旅行医学)」と「Evidence-Based Medicine(根拠に基づく医療)」の研鑽と実践に努めております。

在留邦人数が200人程度で、医療レベルも低かったルーマニアのブカレストでは日本人会医療部会との協力の下に大使館医務室で在留邦人の皆様の診療もさせていただいておりました。

医療レベルも高く、派遣元の医療体制もしっかりしているデリー在留邦人の皆様方に、一臨床医にすぎない小官が、現地法、日本国法に触れることなく、たった一人でのような貢献ができるか、皆様方からのご要望、ご意見を頂戴しながら、皆様方と共に頭を捻り、大使館幹部の決裁を仰ぎたいと考えております。ご意見ご要望をお寄せください。

taka-m@nisiq.net(メールアドレス) □



軍手でローラーブレードを楽しむ小生(これでも日体協公認スポーツドクターです。)